

酒々井町立大室台小学校

1 学校の紹介

(1) 学校及び地域の概要

本校は、昭和 57 年酒々井小より分離し、創立 37 年になる。酒々井町は成田空港の開港と共に首都圏のベッドタウンとして急速に発展した。このことにより児童数が増加し、酒々井小学校より分離することで本校が開校した。現在児童数 376 名、学級数 17 (含：知的 3、自・情 2) である。学校は豊かな自然に囲まれ、児童は明るくのびのびと生活している。

本校から徒歩約 25 分のところに町立図書館がある。学区外にあり、児童が普段利用するにはやや距離がある。

(2) 学校教育目標

心豊かで、ともに学ぶたくましい子の育成

【目指す子ども像】

- 相手を思いやる子ども (やさしさ)
- 進んで学習する子ども (かしこさ)
- 何事にも挑戦し互いに磨きあう子ども (たくましさ)

(3) 読書活動に関する目標

- 読書の楽しさを知り、図書館を自由自在に活用できること。
- 児童の生涯にわたる読書習慣を形成し、学力の向上と豊かな心を育成すること。

2 学校図書館の現状

(1) 整備状況

蔵書数…9, 780 冊 (学校図書館図書標準達成率 98%)

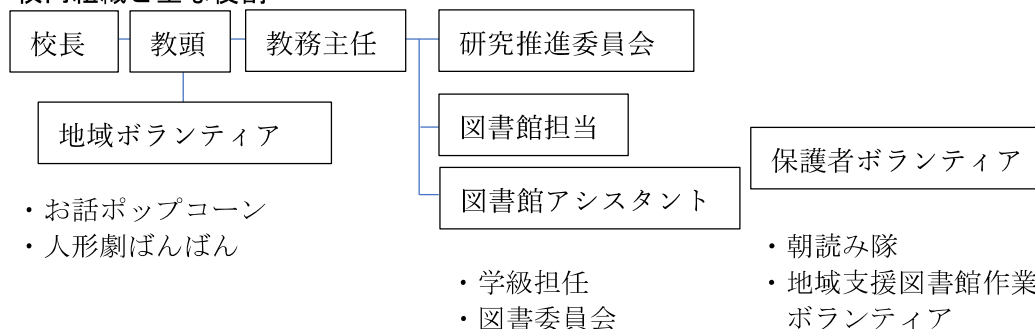
(2) 利用状況

学年ごとの一人あたり月間平均貸出冊数 (4月～12月)

1年生…49.68 冊/人、 2年生…96.33 冊/人、
3年生…74.2 冊/人、 4年生…95.29 冊/人、 5年生…45.56 冊/人
6年生…30.24 冊/人、 全校…65.87 冊/人



3 校内組織と主な役割



4 図書館の運営について

(1) 図書・資料の開架スタイル

【第1図書館〔特別棟〕】(0～8類・原則的に個人貸出しは、なし)



学習に必要な本をクラスや学年で扱うことが多い。

分類分けをして本棚を配置しているので、児童が自ら本を選んで情報を収集することができる。

教科単元に合わせたワークシートがすぐに使えるように用意している。

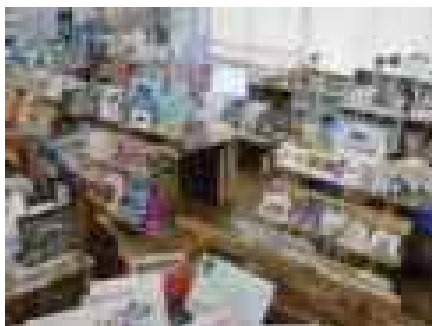
【第2図書館〔教室棟〕】(主に9類・絵本・その他)



主に9類や絵本をそろえている。また、児童が興味を持てる楽しい図書館になるようなテーマごとに選書したコーナーも作っている。

子供たちがくつろいで読書できるようなスペースも作っている。

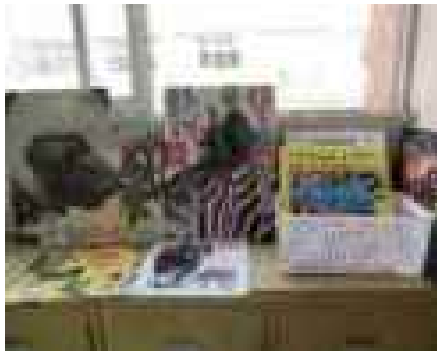
【第3図書館〔教室棟〕】(主に0～8類・雑学その他)



基本的には分類ごとに配置している。雑学や季節に関するテーマなどコーナーを作って、選書している。学習に関連した偉人やスポーツなどのテーマもある。

児童が座って本が読めるようなスペースも作っている。

【教室廊下へ配架】



年間図書活用計画に基づき、単元に合わせて図書の活用時期を見越して各学年の廊下に図書を移動している。

児童は、授業中に図書を扱い、必要な情報を収集することができる。また、必要に応じて、図書アシスタントに本を揃えてもらうこともできる。

また、町立図書館から借り入れた図書を廊下に並べ、図書館の本を手軽に読むことができた。

(2) 図書館利用のガイダンス

年間指導計画・年間図書活用計画に基づき、発達に応じた図書館を活用する学習を組み入れ、計画的・段階的に進めていく。

わからないことは、まず図書で調べる習慣を付ける。(足りないものをパソコンの情報で補う。)

【第1図書館 (オリエンテーション)】



特別棟にあり、学習に関する本を揃えている。そのため、他の図書室とは違った図書室の使い方や分類、本の貸出し方法についてオリエンテーションで説明している。

ここでは、学習に必要なワークシートなども用意されているので、オリエンテーション時に説明している。

- 1・2年 図鑑の使い方
- 3・4年 ワークシートの使い方
- 5・6年 新聞ワーク、百科事典の使い方・要約、ワークシートの使い方

【第2・3図書室 (オリエンテーション)】



図書館の使い方、貸出カードの書き方、貸出し返却の仕方、読書カードの記入について、本の分類、自主的に本の棚戻しをすることなど年度当初に共通理解しておく内容をオリエンテーションで確認する。

また、おはなし会や本の紹介など本の楽しさを伝える活動もここで行っている。

(3) 図書の貸出しについて



本校では、委員会の児童や図書アシスタント、担任による本の貸出しの他、各学級においても児童による貸出しを行っている。

オリエンテーション時に方法を説明し、貸出しセットを各学級に配付しているので係児童が処理を行うことができる。

(4) 図書館における読書推進活動

①読書タイムの充実

教育課程において、毎週月曜日朝のミニタイム(15分間)に読書タイムを実施している。その時間は、児童が選んだ本を読む。面白いと感じた本に関しては、本の紹介カードにおすすめポイントを書き、各学級に掲示している。

月に一度、教師による読み聞かせを行い、児童の読書の幅を広げる活動も行っている。

②保護者ボランティア

【朝読み隊による読み聞かせ】



学期に2～3回、保護者ボランティアによる読み聞かせを行っている。

朝のミニタイム（15分間）に2～3冊の本を学年の発達段階に合わせて選び、児童の読書の幅を広げられるようにしている。

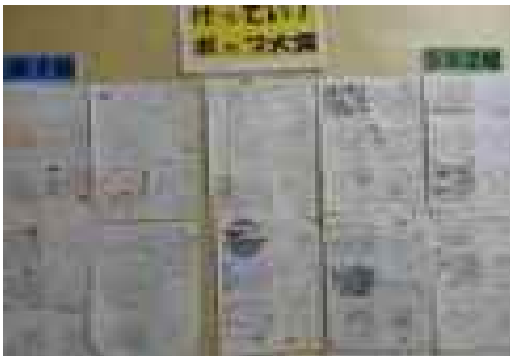
子供たちは毎回いろいろなボランティアの方が行う読み聞かせを楽しみにしており、読み聞かせを行った本を借りる子供が増えた。

【図書館作業ボランティア】



必要時に応じて、本の修理・ブッカーかけ等を行う作業ボランティアを募り、活動している。子供たちがよく読む本や古い本は、どうしても痛みがひどく、ボランティアで活動してくださるのは大変助かっている。

③図書館掲示



各学級に配付されている図書便りや図書館便り、おすすめの本などが掲示されている。

各学年で学習した掲示物も掲示され、児童の興味を引き出せるような工夫をしている。

当該学年以外の子供たちも興味深く掲示物を読み、読書に対する意欲を高められた。

④学級ごとの読書紹介カード



各学級に読書紹介カードを掲示するコーナーを設置し、通年を通してどの児童も本を紹介し合える環境を整えた。友達がどのような本を読んでいるかを知り、自分も読んでみようという意欲化につながった。

書くことが苦手な児童は、挿絵部分で様子を表すことができた。

⑤図書便りの発行、新しい本・おすすめの本のお知らせ



月に一度、委員会児童による図書便りを低学年・高学年を対象を分けて発行している。新しい本を展示し、予約した児童へ配達している。新しい本のお知らせやおすすめの本については、昼の校内放送で全体へ周知している。

⑥先生のおすすめ本

夏休みの研修時に教職員全員がおすすめの本を選び、校内に掲示して紹介した。2学期に図書館前の廊下に本を並べ、児童が手に取りやすい環境を整えた。

⑦図書委員会による取組

「どこでもお話会」



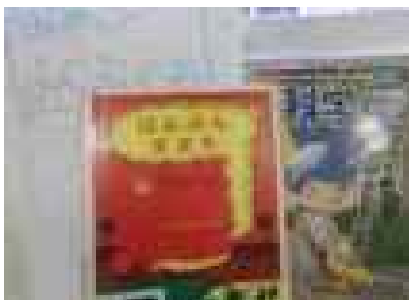
○どこでもお話会

学期に数回、図書委員会の児童による「どこでもお話会」を行っている。グループごとにテーマを決めて選書し、ポスターや校内放送で周知する。テーマに合わせて場所を選んだり、読み方を変えたりして、読み手の興味を引き出す工夫をすることができた。

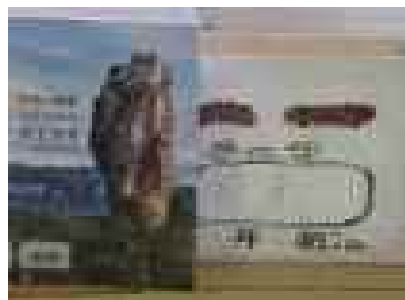
○本の福袋、ひとはこ文庫

3学期には1・2年生に「本の福袋」を作り、各学級に配付した。全児童分の袋を用意したので、どの児童も様々なジャンルの本に触れることができた。3～6年生には「図書委員会おすすめ本箱」を作り、各学級に配付した。普段手に取らないような本も選び、児童の読書の幅が広げられるようにした。

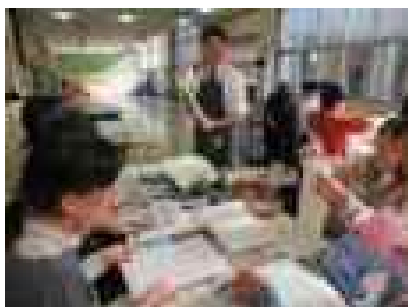
「ひとはこ文庫」



「本の福袋」



⑧大ちゃんブックカフェ（保護者対象）



教育ミニ集会「読書で広がる子どもの世界」において、保護者同士でグループごとに絵本の読み合いを行った。教職員が各テーブルについて進行役を務め、和やかな雰囲気を読書を楽しむことができた。

第2弾として「大ちゃんブックカフェ～クリスマス～」を開催し、持ち寄ったクリスマスの絵本を紹介して読書を楽しんだ。

その他、毎日更新される学校ホームページでイベントの様子を発信しており、読書に関する保護者の意識が向けられるようになってきた。

(5) 学習等に関する支援（教科指導に関すること）

①調べ学習への支援・教科単元に関連した図書資料の準備、提供等

年間図書活用計画に基づき、必要な本を選書して図書ボランティアが各学年の廊下に図書を移動している。

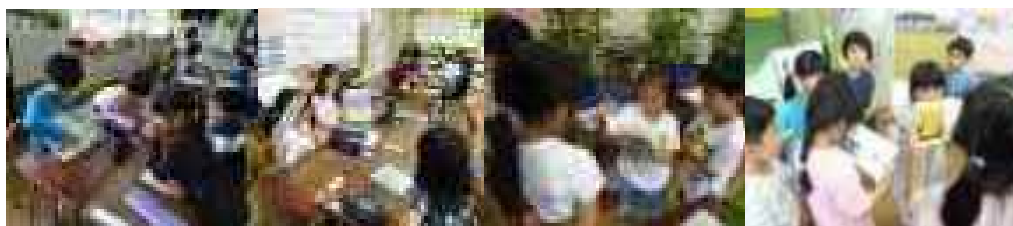
時期に合わせて本を入れ替えているので、児童は必要な時期に必要な本を読むことができる。また足りない本については、事前に図書アシスタントに相談すると町の図書館から本を取り寄せることもできる。

②授業で行われている取組の概要及び指導案等

【第1学年の実践】

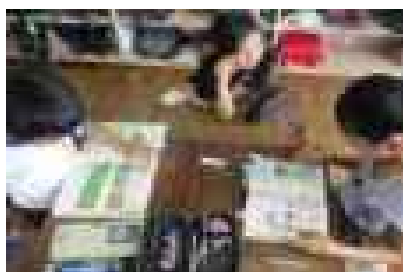
朝の読書タイムの時に自分のおすすめの本を友達と紹介し合った。気に入っているページを開いて説明したり、クイズを出して楽しんだりして本のおもしろさを共有することができた。

休み時間には工藤直子の「のはらうた」を一緒に読み合い、詩の情景を想像することができた。



【第2学年の実践】

生活科「わくわく どきどき たのしいハーブ」の学習で、ハーブについてもっと知りたいと思った子供たちは、図書アシスタントの先生に相談してハーブの本を揃えてもらうことにした。用意してもらった本を読んだり、お家の人や地域の方に教えてもらったりして、調べたことをまとめた子供たちは、地域の方や図書アシスタントの先生を招いて「ハーブパーティー」を開き、ハーブについての発見を発表した。発表の後には、学校図書館に特設コーナーを用意してもらい、作成した資料をハーブの本と一緒に展示・紹介してもらった。



【第3学年の実践】

「ことわざ・慣用句」で学習したことを平行読書によって意味を確認し、様々なことわざに触れることができた。

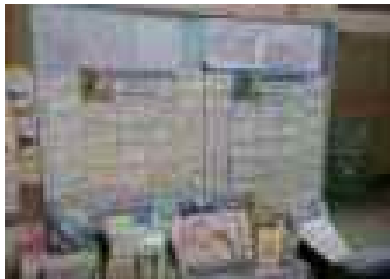
数十種類の本の中から自分の気に入った本を探し、休み時間にも読んでいる児童の姿が見られた。学習のまとめとして、気に入ったことわざや慣用句を書き出

し、教室に掲示した。



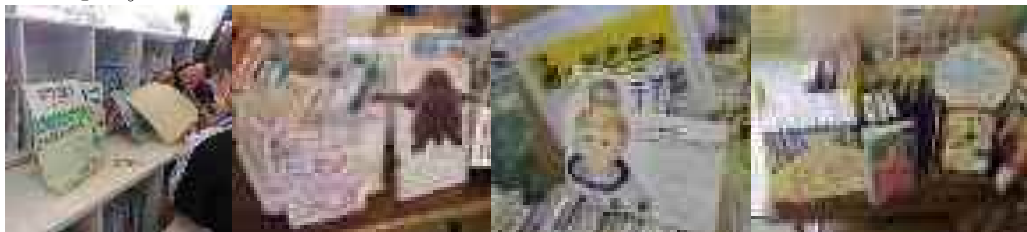
【第4学年の実践】

国語科「ごんぎつね」でごんや兵十の心情を読み取った。この物語がどのようなお話なのかをそれぞれの児童が考え、短い言葉で表す副題を作って図書館で紹介した。児童によって選ぶ場面が異なり、個性豊かな副題が並んだ。



【第5学年の実践】

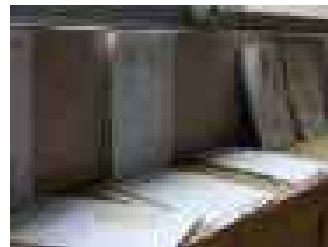
国語科「図書すいせん会を開こう」では、普段読みためている貸出し図書からお気に入りの作品を選び、ポップや帯紙、ポスターを活用して推薦した。お互いの図書を推薦し合い、図書室に展示してもらうことで図書室利用を推進することができた。



【第6学年の実践】

国語科「大切な本をしょうかいしよう」では、1年生に自分で作った本を読み聞かせた。1年生が興味を持って本が読めるようにわかりやすい内容にしたり、キャラクターを親しみやすいものにしたりと工夫した。

できあがった本は兄弟学級の1年生に読み聞かせに行き、いつでも読めるように1年生の廊下に並べた。



(6) 特別活動に関すること

① 図書委員会の指導

一か月に一度の委員会活動で自分たちの予定を確認し、必要な活動の準備ができるようにしている。具体的な活動内容としては、本の貸出し、室内整備、図書受け入れ作業、図書便り作成、昼の放送での本紹介などを行っている。時期的なイベントとしては、1・2学期に一度ずつどこでもお話会、3学期には1・2年生対象に本の福袋、4～6年生に向けて図書委員会おすすめ本箱を作成した。

(「(イ) 読書推進活動に関すること」参照)

委員会の子供たちは活動を通して、相手を意識して本の楽しさを伝えられるようになってきている。

② 公共図書館との連携

町立図書館では、各学年でチェックした図書活用年間予定表に合わせて毎月、団体貸出しすることができる。(各学年100冊まで)

必要に応じて随時リクエスト受付もできる。※教職員個人のリクエスト受付もできる。

5 成果と課題

(1) 成果

- ・ 開架方法や貸出し方法を学校体制や児童の実態に応じて工夫し、定期的な推進活動が定着しつつある。
- ・ 教職員による「先生のおすすめ本」のイベントでは、学級担任以外の職員から現時点での図書館の利活用について話を聞き、要望を知ることができた。また、図書アシスタントと共に年間を通じて図書館の利活用について見直し、今後の展望を考えることができた。
- ・ 保護者対象の「大ちゃんブックカフェ」や読書に関するミニ集会を開催し、家庭での読書活動の推進を図ることができた。

(2) 課題

- ・ 第1図書室の活用が少ない。必要な本は、学年の廊下へ移動して活用しているが、児童が学習のために自分で足を運んで本を手にとれるようにしていく必要がある。
- ・ 情報活用能力を育てるために情報教育担当と連携をとることが必要だと考える。
- ・ 保護者を巻き込み、家庭教育にも読書活動推進を図っていきたい。



第3学年1組 国語科学習指導案

指導者 3年1組担任 岡野谷明子

図書館アシスタント 齊藤 千夏

1 単元名 詩を楽しもう

2 単元について

本単元は、詩の鑑賞を通して詩の表現形式や言葉の特徴を理解し、自ら創作する体験を通して、詩の持つ面白さを味わう学習単元である。

本学級の児童は、本を読む子が好きな子が多く、休み時間に図書室に通う姿もよく見ることができ、詩を読んだり作ったりする経験は、それほど多くない。そのため、まず、担任や図書館アシスタントが、詩の本を紹介するとともに、いくつかの詩を音読・朗読して、詩の楽しさを鑑賞させる。詩の表現形式やイメージに興味を持たせ、自分たちにも創作できそうだという感触をつかませたい。次に、紹介した詩の本からモデルになる詩を選び、模倣作の形で、まずは詩の創作を体験させたい。たくさん作品を試行錯誤して作らせる中で、詩の持つリズムや繰り返しのよさ、比喩の面白さを納得するまで味わわせたい。作った作品は、「詩作メモ」という手帳に集積して、気が向いた時に読み返し、推敲を心がけさせたい。納得できるいくつかの作品ができれば、その中から一つを清書して、学級の友達同士で鑑賞し合う。その際、自分の作品がどの詩をモデルにしているのか、自分の工夫はどこにあるのかを聞き手に伝えた上で発表することに留意したい。自分の表現意図が実際に創作された詩に効果的に表れているかを聞き手は評価して、作者に感想を伝えたい。

この学習活動では、次のことに留意して指導を行う。

- ・図書館アシスタントが詩の朗読や詩集の紹介を行うだけでなく、日常的に児童の読書生活にかかわり、図書室で詩集に触れたり詩を味わったりする機会をもち続けさせる。
- ・鑑賞する詩や創作モデルになる詩は、リズムカルなもの、オノマトペに工夫が見られるもの、豊かな比喩表現がみられるものを選び、表現形式の難しくない親しみやすい詩を選ぶ。
- ・作文等の創作が苦手な子どもには、指導者が対話しながらイメージを膨らませたり、言葉を引き出したりする。
- ・家庭学習でも「試作ノート」を持ち帰らせ、好きな時に詩作を自ら楽しめるようにする。

3 単元目標

○様子や行動、気持ちや性格を表す語句を詩の中で使わせることによって、語彙を豊かにすることができる。 【知・技】

○詩を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方に違いを見つけ認め合うことができる。 【思・判・表：読】

- 言葉が持つよさに気がつくとともに幅広く読書をして思いや考えを伝え合おうとしている。
【学び・人間性】

4 学校図書館とのかかわり

- 学校図書館アシスタントが日常的に児童の読書生活にかかわり、読書ガイダンスで積極的に図書館利用を働きかける。
- ・学校図書館アシスタントが詩の朗読や詩集の紹介をすることによって、図書館に行つて詩集を探したくなる刺激を与える。
 - ・本学習で図書館の詩集を活用することで日常読書の一つのジャンルとして、詩の読書を意識づけられる。さらに、創作に及んでは図書館が学習センター的機能を強く持たせることができる。

5 学習計画（6時間扱い）

[第1次]

- 担任・図書館アシスタントによる詩の朗読を聴く……………本時（1／2）
- ・詩に興味をもち、鑑賞して好きな詩をモデルに詩作する計画を確認する。
 - ・図書館から選ぶ詩は、A リズムがある詩、B オノマトペが効果的に使われている詩、C 比喩表現が効果的に使われている詩とする。
 - ・音読したり、手拍子をしたり、身体表現をして、詩を楽しむ。
- 紹介された詩や図書館からモデルにする詩を選択させる。…………… 1

[第2次]

- モデルになる詩の表現形式や特徴を活かして詩を作る。…………… 2
- ・モデルになっている題材をそのまま使ったり、類似した題材から詩をたくさん作ったりして、詩作ノートに作品を集積する。
- 詩作ノートの詩を推敲して、作品カードに清書する。…………… 1

[第3次]

- 学級全体で詩の朗読会を行う…………… 1
- ・グループで朗読を聴き合つて推薦作品を決め、推薦作品を学級全体で鑑賞する。

6 本時の学習（1／6）

(1) 目標

- 紹介された詩の持つ表現形式や言葉の特徴に気づき、思いや考えを伝え合うことができる。
【思・判・表：読】
- 思いや考えを伝え合う中で、一人一人の感じ方に違いがあることに気づくとともに尊重し合う気持ちを持つことができる。
【学び・人間性】

(2) 展開

時配	○学習内容と学習活動	○・指導・支援 ◎評価	資料
7 3 3	○担任の好きな詩を紹介する。 ○鑑賞から詩作する学習計画を共有する。 ○本時のめあてを確認する。	・リズムカルで音読しやすい詩を選ぶ ・学習計画を掲示し、見通しを持たせる。 ・本時は作ってみたい詩のモデルを見つけて伝える。	詩集 計画 表
自分のお気に入りの詩をみつけよう			
10	○図書館アシスタントによる詩の朗読を聴く。 A リズムある詩 B オノマトペのある詩 C 比喩表現のある詩	・次の3つの特徴を持つ詩を朗読する。その際、リズムを打ったり、身体表現を加えたり、感想を出し合ったりして、詩の鑑賞に結びつける。 ◎紹介された詩の特徴(A～C)について理解することができる。	
10	○A～Cの特徴を備えた詩を集めた詩集を鑑賞し、自分が好きな詩(創作のモデルにしたい詩)を選ぶ。	◎紹介された詩に対して自分なりの感想やイメージを話し、自他の感じ方の違いに気づくことができる。	
10	○次時は、詩集から一番好きな詩をもとに自分でも詩作を確認する。	○詩集の中の詩を音読して、特徴に気づき、その効果を話し合わせる。 ・詩の鑑賞には音読や身体表現、リズム打ち(手拍子)などを多用して、その詩の持つ楽しさを感じさせる。	
	○本時の学習内容を振り返り、次時の学習内容を見通す。	○現在の段階でモデルとしたい詩を決めさせる。 ◎詩集の詩に対して自分なりの感想やイメージを話し、自他の感じ方の違いに気づくことができる。 ○すでに見通しを持ち、詩を作りたい児童のために「詩作ノート」を配る。 ○学習計画表を見ながら学習の見通しを確認させる。	

【年間活動予定】

月	年間行事	図書委員会	教師	アシスタント		ボランティア	
				図書・データ(文庫)作業	読み聞かせボランティア	図書作業ボランティア	
年間	新しい本の展示 予約会 スタンプラリー	図書便り発行 貸し出し 室内整備 コーナー設置 予約本配本 新着本受け入れ 月末貸出冊数 カウント 放送告知	月末貸し出し冊数カ ウント 貸し出し	貸し出し 室内整備 調べ学習資料配本 コーナー設置 図書便り発行 月間報告書(図書館活 用・貸し出し冊数) 図書物品発注 スタンプラリー 研修	図書data 入力 除籍選書・ フラグ立て・台 帳赤線入れ TRC図書発注 日販見計らい		
4月	オリエンテーション 4/23 こども読書 の日		教師の読み聞かせ (4/23 こども 読書の日) Tオリエンテーショ ン	図書会議	data併合上書 ぎ (横山さん)		
5月	こども読書の日(読み あいおすすめ)			大ちゃんブックカフェ (保護者)			朝読み隊デモンスト レーション 修理・ブッカー・ 新着本受け入れ
6月		図書祭り (どこでもおはなし 会)	教師の読み聞かせ	次年度委員会物品購入 希望 1学期報告書作成		朝読み隊 ポップコーン	修理・ブッカー 大ちゃんブックカ フェビクニック・し おり作成 新着本受け入れ
7月	夏休み貸出 ポップ大賞 (5・6年生)	おすすめ本ポップ 作成・コーナー作 り	教師の読み聞かせ	図書会議 学校図書館活用状況ア ンケート			
8月			図書研修				
9月	3, 5, 6年生おはなし 会・本紹介	ポップ掲示・投票	教師の読み聞かせ (先生の おすすめ本)	次年度教科物品購入希 望 3, 5, 6年生おはなし 会・本紹介 蔵書率・貸出冊数報告 (9・30)	data併合上書 ぎ(横山さん)	朝読み隊 ポップコーン	しおり作成・修理 新着本受け入れ
10月	秋の読書週間	図書祭り (大ちゃんブック カフェ)	教師の読み聞かせ (児童間本紹介)	大ちゃんブックカフェ (保護者)		朝読み隊 ポップコーン	大ちゃんブックカ フェビクニック しおり作成
11月			教師の読み聞かせ	2学期報告書作成		朝読み隊 ポップコーン	しおり作成・修理
12月	冬休み貸出			図書会議 大ちゃんブックカフェ (保護者)			

1	5・6年アンケート	図書祭り (ひと箱文庫)	教師の読み聞かせ 5・6年アンケート	5・6年アンケート集計		朝読み隊 ポップコーン	
2	貸出冊数100冊以上調査		教師の読み聞かせ 100冊調査	P T A教育振興費報告 3学期報告書作成 100冊調査		朝読み隊 ポップコーン	しおり作り・修理
3				図書会議 6年生へお便り・個人 ファイル返却 次年度準備(貸し出し カード・ふりかえり シート・オリエンテー ションワークシート) ・蔵書率・貸出冊数報 告(3・20)	data併合上書き (横山さん)		しおり作り・修理